

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

2023.4.27

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立川上小学校
1 前年度 評価結果の概要	・校内研究の充実により、ほとんどの職員が全教科・領域において授業改善・授業力向上にできたと感じていることは大きな成果である。その一方で児童の「学習の構え」の定着はまだ不十分である。基本的学習習慣の定着と「分かる楽しい授業」に向けた更なる授業力向上、主体的・対話的で深い学びを支える支持が課題であり、学力向上の土台になると思われる。 ・いじめ対応や気になる児童への対応については、全教職員で共通理解を図ったり共に研修を受けたり、外部専門家や市教委等とも密に連携を取ったりしながら、組織的に対応し、学校のチーム力を向上させた。また教育のユニバーサルデザイン化を進めることができた。 ・生徒指導を始めとする諸課題対応において、PTAや学校評議員、地域諸団体の協力を仰ぎ、積極的に連携を図ったことは、地域との信頼関係を深め、学校コミュニティスクール化に向けた土台づくりの第一歩となった。

2 学校教育目標	「あいさつ1番！笑顔1番！元気1番！」 みんなが笑顔の楽しい学校 ～高きに和す 笑顔あふれる チーム川上～
----------	---

3 本年度の重点目標	1. 生活及び学習の基礎基本の力の定着と自尊感情の醸成 2. 安心安全な教育環境の再構築 3. 家庭や地域と連携強化した教育活動（R6年度コミュニティスクール化に向けた体制づくり）
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイブランの成果指標を達成した教師80%以上 ○県学習状況調査(4～6年)、CRTテスト(1～3年)での各学年各教科平均5ポイント以上アップ	・教職員間でマイブランを共有すると共に、定期的に研修をもち、自己の実践のふり返りや取組の共有、促進を行う。 ・「川上っ子の学び」を活用し、どの教師もどの学級でも「学習の構え」の継続・徹底指導を行い、定着を図る。 ・教科フリーで講師招聘による校内研究を充実させ、日々の各教科授業に授業改善を図る。 ・校内研修においてタブレットPCの活用を積極的に取り入れたり、ICT活用研修を複数回行ったりする。						
	○「学習の構え」の定着と主体的・対話的な学びを意識した「分かりやすい楽しい」授業に向けた授業力向上	○学習の構えが定着した児童85%以上(見取りアンケート) ○授業が「分かりやすい」と回答した児童85%以上							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自分のことも他者のことも大切にできたとと思う児童85%以上 ○地域の方とふれあう教育活動について肯定的な回答をした児童85%以上	・年間8回の人権集会及び各学年の人権教室の実施により人権意識の向上を図る。 ・各学年学期1回以上グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどの実践を行う。 ・地域の方とふれあう教育活動を通して、社会性や豊かな心、自尊感情の向上に繋げる。						
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの未然防止・早期発見・早期対応のための取組、事案対応等)について、組織的対応ができていると思う教職員90%以上。 ○「学校が楽しい」「学級が安心できる」という児童85%以上	・「気になる子」情報共有や毎月の「心のアンケート」結果の共有などをもとに、組織としてのいじめの未然防止・早期発見・早期対応を徹底する。 ・いじめ対応についての研修・会議を行い、対応マニュアルの共通理解や情報交換を行う。 ・全職員で、「誰一人取り残さない学級経営・授業づくり・児童支援」に努める。						
	●○児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●◎「将来の夢や目標を持ち、「なりたい自分」に向かって自分の課題と目標を設定することができた児童80%以上 ◎「ふるさとのよさが分かった」「ふるさが好き」と肯定的に捉えることのできる児童90%以上	・キャリアやバスポート等で、定期的に自身の成長を振り返らせたり、目標(なりたい自分)に近づくための短期目標を設定させたりすると同時、それを承認し合う機会を設ける。 ・地域学習や体験活動等では、明確な目標・見通しをもたせ、単元や活動の終末には学びを振り返りを行う活動をきちんと仕組むことで、ふるさと及び自分のよさに気付かせる。						
	○児童の自己肯定感を高める教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85%以上 ○「あおば活動・あおば交流」に肯定的な回答をした児童80%以上	・互いのよさ、各自のよさを引き出し認め合えるような授業づくり、学級経営に努める。○「ほかほかの木」「ほめほめカード」の学校・学年・学級での活用) ・授業やノートなどで、個々の頑張りを伸ばし、具体的に称賛し、自身の頑張りを成長を自覚させる。 ・あおば活動(縦割り活動)や、異学年交流をする中で自他の新たなよさに気付かせる。						
	●健康・体づくり	●②「望ましい生活習慣の形成」 ●④「安全に関する資質・能力の育成」	・率先垂範で教職員が児童や他職員、保護者、来校者等に手本となる挨拶をしたり、できている児童を「ほめほめカード」で褒めたり広げたりすることで、全校的な意識の高揚を図る。 ・高い危機管理意識に基づく安全意識の充実と校内のUD化及び児童の危機回避・危機対応のための思考力・判断力を身に付けさせるための避難訓練等の工夫を図る。						
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●時間外在校時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。(月平均の時間外勤務45時間以内) ○定時退勤日達成率90%以上、年休取得年間14日以上 ○業務改善が工夫・推進できたという教職員80%以上	・毎週定時退勤日を設定する。 ・長期休業中は連続休暇が取りやすい研修計画を工夫する。 ・教職員が年休取得時の支援体制を整える、年休取得しやすい環境をつくる。 ・総合的な学習・生活科・外国語活動・学校行事等と他教科との関連を図ったカリキュラムマネジメントを推進し、効率的な地域学習が行えるようにする。 ・教材等の共有化や校務の情報化による業務のさらなる効率化を図ると同時に、個人の業務改善の工夫を図る。						
	●業務効率化の推進								

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の充実	○特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制の充実及び専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した、教育のUD化を意識・実践できた教職員80%以上	・「気になる子、支援を要する子」を対象にした校内支援体制を充実させ、全職員で情報を共有すると共に、必要に応じて積極的に保護者、外部機関と連携し、個に応じた適切な指導・支援に繋げる。 ・講師招聘による特別支援研修会を行い、教職員の専門性と意識の向上を図る。 ・UD推進リーダーを設け、教室環境のUD化・授業のUD化・人的環境のUD化に全職員で取り組む。						
	○教育のユニバーサルデザイン化の推進								
○教育活動の縦軸と横軸を繋ぐ連携の充実	○幼保小中の縦軸の連携の充実	○幼保・・・幼保との交流学習を年3回実施全職員による保育参観と年長児についての情報交換(夏季休業) ○小中・・・6年生と中学生との交流を年2回実施	・幼保・・・1・2・5年生が年長児を小学校に迎え、1回ずつ交流を行う。全職員による川上こども園、川上保育園の保育参観の実施。 ・小中・・・①6年生の体験入学、中学生による学校説明会の実施。②中学校校区内小中合同研修会を実施し、情報交換を行う。 ・コミュニティスクール化に向けた組織作りや活動のカリキュラム化を、地域教育コーディネーターを活用して進める。 ・地域人材を巻き込んだ授業や教育活動を積極的に進め、従来の教育活動の更なる充実と効率化を図る。						
	○大和校区5校及び家庭・地域との横軸の連携強化	○地域人材を活用した授業や活動について、肯定的な回答をした保護者80%以上							

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--